

令和2年度第3回亀岡市環境基本計画推進会議

- 開催日時 令和2年12月21日（月） 午前9時30分～午前11時30分
- 開催場所 亀岡市役所 別館3階 会議室
- 出席者 田部会長，加藤副会長，河原委員，石黒委員，山脇委員，神崎委員，兒嶋委員，村山委員，田上委員，松山委員，木村委員，太田委員，由良幹事（事務局4名）
- 欠席者 面村委員，井尻委員，上田委員，尾松委員，丸谷委員

1 会長挨拶

2 協議事項

(1) 市民アンケート，事業者アンケートの集計結果について

(2) 第3次亀岡市環境基本計画の策定について

意見・質問	回答
<p>今,急速に脱炭素化がクローズアップされているが,アンケートの結果でも見られるように,脱炭素化の意識は全くない。世間と市民意識のギャップを感じる。施策体系図の重点Ⅰを脱炭素に変えたのは正解だと思う。亀岡市には,亀岡ふるさとエネルギーという自治体新電力を持っている強みがあるが,アンケートの結果を見ても全く活かされていない。今後の効果的な広報が必要である。亀岡市では,プラスチックごみゼロ宣言によって,アンケート結果を見ても,非常に意識が広がっていることから,重点Ⅱ「使い捨てプラスチックごみゼロのまちづくり」は,2030年に向けてゼロにする目標があって,分かりやすいが,重点Ⅰ「脱炭素化に向けたまちづくり」と言われても,どうしていいのかわからない。京都府下で自治体新電力を持っている亀岡の先進性を活かすとなると,脱炭素の取組の中で,亀岡ふるさとエネルギーを核としたエネルギーの地産地消があるので,重点Ⅰ</p>	<p>世界の動きは脱炭素の方向にシフトしていると考えている。首相の所信表明もありましたし,今後,国としても強力に施策を推し出していくものと考えている。CO2削減では,既存の技術では達成出来ないだろうと言われていて,いろいろな革新を起こしていくということを前提に考えていく必要があると思っている。「めざすべき環境像」は,2050年を見据えていく必要があるのかなと考えているが,その中で,計画自体の目標は,2030年を見据えた形の施策・重点目標・個別目標・行動目標というような考え方になるのではないかと考えている。</p>

<p>は、「エネルギーの地産地消に向けたまちづくり」でも分かりやすいのではないかと。京都府や京都市は具体的な施策を作り始めて、再生可能エネルギーの拡大に向けた具体的な策を打ち出しているのだから、亀岡もそれに独自の施策を付加して打ち出していく必要があると思う。CO<sub>2</sub>の数値目標では、京都府の温暖化防止計画で、2013年の値に対して2030年に40%、2050年ゼロという明確な目標が設定されている。亀岡市もそれを見据えて、亀岡の独自性を付加して目標設定をする必要があると思う。</p>	
<p>世界的な脱炭素化がどのように動いていくかは想像できないが、急速に様々なものが要求され、それに政府も追従していくのではないかと。今回の市民アンケートで、市民が望む市の環境像は、前回とそれほど変わっていない。これは、現状の亀岡の環境に満足している裏返しなのかもしれないが、私たちに突き付けられている新たな課題、それを解消していくことも重要なことかと思う。基本計画にも盛り込んでいくべきとは思いますが、アンケート結果も反映しなければならず、そのあたりのバランスについて、事務局はどのように考えているのか。</p>	<p>世界の動きは脱炭素の方向にシフトしていると考えている。首相の所信表明もありましたし、今後、国としても強力に施策を押し出していくものと考えている。CO<sub>2</sub>削減では、既存の技術では達成出来ないだろうと言われていた中で、いろんな革新を起こしていくということを前提に考えていく必要があると思っている。「めざすべき環境像」は、2050年を見据えていく必要があるのかなと考えているが、その中で、計画自体の目標は、2030年を見据えた形の施策・重点目標・個別目標・行動目標というような考え方になるのではないかと。思っている。</p>

<p>主な意見</p>
<p>世界の中の動きに追随するために、10年目標の1番に脱炭素化を挙げたというのは良いと思う。市民アンケートでは、市民の素直な意見や気持ちが出て良い結果だと思う。脱炭素化の満足度が低いのは、市民レベルでは取り組みにくいテーマなのだと思う。2番目の「使い捨てプラスチックごみゼロ」は、市民レベルで出来ることなので、関心が高いと思う。CO<sub>2</sub>排出削減の目的には、気候変動が大きく関係していると思う。大規模な自然災害を身近に感じるようなことが起こっており、生死に関わる問題であると思う。脱炭素化は、市民レベルではなくて、トップダウンで市や議会が取組を策定し、市民が追随していく取組にしなければ、基本計画はうまくいかないと思う。めざすべき環境像は「地球にやさしい環境先進都市」という言葉も入っていることから、脱炭素化、気候変動への対応は避けられないと思う。そのあたりを含めて、市民に分かりやすい具体例を挙げられるかが大きな課題と考える。</p>

身近な課題でなければついていけない。使い捨てプラスチックは、すごく身近な話であり、市民意識が高くなったと思う。脱炭素では、亀岡ふるさとエネルギーが重要で、自治体新電力は、地域内で生まれた付加価値を市民に還元するものなので、出来るだけ身近な問題として広報しなければ育たないと思う。2030年代には、ガソリン車が無くなると国が宣言しており、市民だけでなく、事業者もどうすべきか考えなければならない時代となっている。再生可能エネルギーの普及は、家庭が難しくても、亀岡市の事業所の屋根はいっぱい余っている。京都府が、事業者の屋根に太陽光を投資ゼロで設置する事業を行っていることから、亀岡市も京都府と連携しながら、再生可能エネルギーの普及を進める手立てはあると思う。

重点Ⅱ「使い捨てプラスチックごみゼロのまち」は分かりやすいが、重点Ⅰ「脱炭素化の取組」は、何のことかよく分からないし、市民アンケートでも下位となっている。もう少し分かりやすいように「ふるさとエネルギーの地産地消」とかにする方が、少し興味を持てると思う。

身近に感じる目標というのが市民の方が行動しやすいため、その方向で目標を立てたほうが良い。

重点目標については、目標をはっきり数値化すべきである。また、脱炭素と言われても、うまく説明できないし、もっと市民に浸透させていくべきと思う。重点Ⅲは、何をもちょうまちづくりにするのか数値化は難しいと思うが、具体化できればいいのではないかな。

今後、10年間の亀岡市の環境基本計画となるが、何らかの形で目標数値を出して実行していくことが必要だと思う。新聞では、再生可能エネルギーの目標は、数値を設定して、自治体への義務付けを図っていくと書かれていたが、脱炭素社会との関係では、亀岡市が何らかの目標設定をしたところで難しいのではないかなと思う。しかし、何らかの数値目標を挙げるのも一つの手であると思う。

重点目標Ⅱ「使い捨てプラスチックごみゼロのまちづくり」が具体的過ぎるので、重点目標Ⅰ・Ⅲのような「脱炭素」や「資源循環」程度にしてもいいのではないかな。脱炭素を具体化するとなれば難しいように思う。また、個別目標の「生活環境の保全」と「自然との共生」は、まとめることはできないのか。

個別目標の「脱炭素化の取組」については、「取組」という言葉が馴染まないように感じる。例えば、「脱炭素化を推進」などの前に向いていくような言葉に置き換えても良いと思う。

「脱炭素化の取組」で「交通対策の推進」とあるが、渋滞対策をイメージしてしまい、亀岡の渋滞問題のように思えた。国が言っているのはそうではなく、EV・ハイブリッドの推進であるので、文言の検討が必要と思う。「めざすべき環境」では、資料に書かれている「10年後の私たちのまち『世界に誇れる環境先進都市 かもおか』の実現」が良いと思う。SDGsに使われている言葉は「持続可能性」であり、それを絡めるなら「次代につなぐ」、「次世代に誇れる」とかも良いかなと思う。亀岡市のSDGs未来都市計画には、脱炭素は入っていなかったもので、逆に環境基本計画は、SDGsの中の一部になるはずなので、SDGsの根幹にある持続可能性の点から考えるのが良いと思う。

3 閉会